たはら街なか軽トラ市（10/16撮影）

街あるっく田原
平成28年11月1日㈫ | 第36号

「二七の市」と「たはら街なか軽トラ市」

「二七の市」は、伝統のある朝市で、2と7がつく日の午前5時30分から午前9時ごろまで開催されています。（2日・7日・12日・17日・22日・27日）

現在は、三河田原駅前工場跡地で開催され、健康志向や安心安全な食品を求める時代と相まって、地元野菜や果物などを買い求める方々で朝の田原の賑わいを作っています。

また、これに合わせ、新たな試みとして「いいじゃん田原！街なか応援プロジェクト」が設立され、毎月第3日曜日に、地元飲食店や「二七の市」出店者はもちろん、東三河全域から多くの特産品ブースが出店する田原市最大級の『たはら街なか軽トラ市』が開催されています。

歴史があり、田原市民の生活に密着した「二七の市」と、東三河の元気な出店者の集まる「たはら街なか軽トラ市」との相乗効果で、新旧が融合した新たな賑わいを生みだしはじめています。

今回は「二七の市」と「たはら街なか軽トラ市」を『賑わいづくり』という観点から紐解き、取材しました。

田原市中心市街地活性化基本計画とは

平成28年3月15日付けで内閣総理大臣の認定を受けた「田原市中心市街地活性化基本計画」は、中心市街地の活性化に関する法律に基づき、本市の豊かな自然や城下町としての歴史、国内有数の農業の生産地としての特徴を活かしながら中心市街地を活性化するため、関係団体や市民の皆様の意見を聞きながら、田原市が策定した計画です。

田原市の最大の魅力である「花・緑」、地域固有の「文化・歴史」などの地域資源を活かし、特色ある多くの人々が回遊する中心市街地を目指して活性化を進めていきます。実施する事業は「市街地整備改善」「都市福利施設」「住居供給、居住環境向上」「経済活力向上」「公共交通、その他」と多岐にわたり、以前から実施をしている継続事業、新規事業合わせて全39事業が実施されます。

本誌は、この事業をサポートするだけでなく、中心市街地の今や計画の進行状況をお伝えすることで、皆様により身近に感じて頂けたらと思っています。

向かうべき将来像●花・緑・歴史的景観など「田原らしさ」を感じられ歩いて楽しい活気あるまち

左ページ写真◀軽トラ市　右ページ写真▶田原二七の市

田原の朝市と言えば「二七の市」。「二」と「七」のつく日に開催され、暖かい時期には夜明け前、朝4時頃から並んでいる人もいるほど、昔から地域の人にとって生活の一部となっています。主に地元農家や地域商店が出店し、現在は三河田原駅前工場跡地に約30軒が集まり、自慢の商品が並びます。

その歴史は古く、約530年前にさかのぼります。文明12年頃、戸田宗光が田原城を築城し、商業の中心が城下町（現在の中心市街地）に集まり、二と七を市日と定めた六斎市が「二七の市」の始まりと考えられています。

戦乱により、たびたび中断されましたが、三宅家が田原藩を治めてから復活を遂げます。

戦前・戦後は、現在の県道28号の船倉橋付近から市役所辺りまでの道路の両側に、約300軒の店が並び、野菜をはじめ履物、布団、衣料品、鮮魚、漬物屋など生活に必要なものが手に入る場所として大切な市でした。その後、船倉橋西広場、あつみの郷北側、松下駐車場と移転し、7年前にセントファーレ、2年前に田原駅前広場、そして今年3月から三河田原駅前工場跡地と場所を移しながら続けられています。場所や時代の変化と共に、客数は約3分の1、出店数も10分の1に減少していますが、常連客も多い地元の人から愛される市として親しまれています。

代表の永田さんによると、「今の時代は共働きが多くなり、時間の関係や利便性が強くなってきました。しかし、天候にも関わらず足を運んでくれるお客さんは、農家など売り手と直接の対話から繋がりを生み、常連となる。これは「二七の市」の大きな魅力。農家も珍しい野菜の栽培や、時期を計算して植え付けをするなど個々に工夫しています」と刺激を受け、出店者も意識が高まっているそうです。出店者同士の情報交換と努力により、ニーズに応えていく相乗効果で常連客を引きつけているのかもしれないと話します。

●「二七の市」は市民生活の一部として「軽トラ市」はイベントとして賑わいを創出

また、「二七の市」の出店者も参加している軽トラ市は、第3回を迎え、近隣地域の出店者と力を合わせ盛り上げています。

取材のこの日の「たはら街なか軽トラ市」（10月16日㈰）にも、多くの市民が足を運び、出店者や参加者との対話を楽しみながら、買い物をする姿が見られました。

次回の「たはら街なか軽トラ市」への期待が高まっています。

●永田 正男さん（日米堂）

地元のお団子屋として親しまれている日米堂。まもなく創業100年を迎え、「二七の市」には戦後の昭和28年頃から店を出す。1本70円のみたらし団子を求め市外からのファンも多い。

●これからも変わらず出店を…

「二七の市」と「たはら街なか軽トラ市」への出店を続け、永田さんと同じように市を見つめ続ける大原さん。「ここ数年で場所を点々としたことで、少しずつお客さんも出店者も減ってきてしまっています。でも常連のお客さんは以前と変わらず、足を運んでくれています。時間前から並び、荷運びを手伝ってくれる人、欲しいと思って待ってくれている人や、雨の日はカッパを着て訪れてくれます。そんなお客さんのために頑張っています。「二七の市」は農家が中心。地元ならではの情報交換や刺激をもらいながら、できる限り続けたいです」と笑顔で話してくれました。

●大原 楊子さん

旬の生花を仕入れて販売。田原を代表する菊は種類も豊富で、軽トラいっぱいに積込み、市がぱっと明るくなる存在。

街なかの元気印、発見！ MACHICCO File.31

デジタルデータを写真へ…本来の写真の素晴らしさを伝えたい

河合写真館　河合（かわい） 喬弘（たかひろ）さん

住 田原市田原町築出 56-2
電 0531-22-0348
営 9：00～19：30
休 年中無休
P 5台

■河合写真館の歴史

河合写真館は昭和2年、喬弘さんの曽祖父が現在営業している場所で写真館を開業したのが始まりです。来年創業90周年となります。

喬弘さんは、昭和53年に田原町で生まれ、高等学校まで地元で育ち、卒業後は名古屋にある日本デザイン学院名古屋校と職業訓練校でそれぞれ2年間、写真についての専門知識や技術を学ばれ、修了後に4代目として家業に入られました。

■アナログからデジタルへ

喬弘さんが家業に入った頃から、カメラの世界は急激にデジタル化が進み、スマホの普及により誰もが簡単に写真を撮れる時代になりました。急激なデジタル化に、当初は対応するのに苦労されたそうです。現在ではアナログの世界を脱却し、デジカメ、スマホからのプリント需要が拡大しているとのことです。

■記念撮影の需要の変化

以前は記念撮影と言えば、結婚式でしたが、現在、田原市で開かれる結婚式は減少し、更に結婚式自体の形態も多様化したことから、式場での結婚式や披露宴での撮影依頼も減っているそうです。成人式や七五三もデジカメやスマホの普及のため、写真館で撮影される方は減っているとのことですが、証明写真や中学、高校のイベント（運動会、文化祭等）や卒業写真は需要があり、修学旅行に同行し撮影することもあると話されました。

■こんなサービスしています

「写真を撮る人は、スマホの普及で増えていると思いますが、プリントせずに保存だけしている方が多いと思われますので、ぜひ一枚でも写真プリントにして思い出を残して欲しい」と話す喬弘さん。例えば、保存してある画像を簡単に読み込める機材やアプリを導入して良い出来映えの写真を選んでもらったり、一枚一枚写真を丁寧に色補正するしたりするサービスの提供もされていますので、ぜひご利用ください。

■地域との関わりを大切に

田原市商工会青年部と商業部会に属し、イベントにも積極的に参加しながら、同業者とも情報交換を密に取り、協力し合える事があれば、どんどん活用しているそうです。田原祭りにも3年前から参加するようになり、地域の賑わいや活性化のため、活動しているそうです。

一枚のプリントから記念撮影まで、お気軽に足をお運びください。

田原市中心市街地の活性化に参加しませんか

参加ボランティア募集

現在、「まちなか賑わいづくり実行委員会」では、賑わいイベントのボランティアを大募集。ミーティングからの参加やイベント当日だけの参加でもOKです。

- ●資格／田原市内在住の方もしくは在勤の方
- ●年齢／不問
- ●参加内容／賑わいイベントのスタッフ
- ●問合先／株式会社あつまるタウン田原 TEL.0531-24-2345

発行元／株式会社あつまるタウン田原　所在地／愛知県田原市田原町萱町1　TEL.0531-24-2345　URL / http://www.tahara-tmo.com/